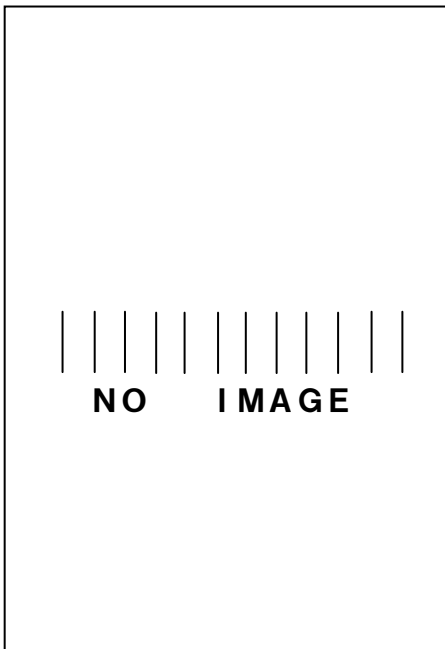


# 今回のおすすめメニュー

0  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23



## 『ニメートル』

横山 佳作  
高畠 那生 絵  
BL出版  
請求記号：913ヨ  
所蔵館：勝連

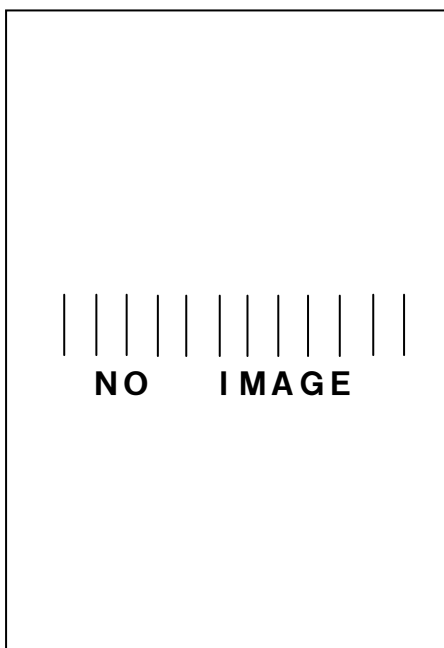
「フツウでしょう」アイツは言った。  
そのときから、アイツ=清に対して、苦手意識をもつことになったおれ=ハル。通学路が同じアイツとは、できるだけ距離をおきたい。

でも、勝手にはなしかけてくるアイツ。通学時、アイツとおれの距離は四メートル。アイツが話し始めると二メートルに縮まる。

毎日きかないふりをしながら、なぜかアイツのうんちくに耳をかたむけているおれがいた。

ちよひよあめ・じゅ・み

大人になっても、「フツウってなんだ？」とか「思い込みだったんだー」とか、人との関わりの中で、今まで気づかなかったことに気づかされます。ハルも清と話をしているうちに、少しずつ変化が…。いつも2メートルという微妙な距離感のふたり、はたして…。



## 『100km! (ヒヤッキロ)』

片川 優子 著  
講談社  
請求記号：913カ  
所蔵館：石川

なぜだか、「100キロを夜通し歩く」という大会にでることになってしまったみちる。「なんで出ることになっちゃったのかなあ…」

交通事故をきっかけに今まででは考えられないくらい、うしろ向きになってしまったママ。私が歩くことで何かが変われば…いろんな思いを抱えながらひとり歩くみちる。途中挫折しそうになりながらも、優しい人たちとの出会いで少しずつ…

ちよひよあめ・じゅ・み

著者は実際に大会に参加したそうです。100キロメートルの途方もない距離を歩くのは、自分との戦いになるそうです。苦しい中、いろんなことを考え、周りの人たちを見て、みちるはどんなことを感じたのでしょうか。